ＳＭＣ金融・経済マーケットレポート

Reporter　SMC　豊島 健治

生保、その健全性をどう見るか

日産生命の破綻とその後の引受け手をめぐる昏迷を見ると、自分の加入している生命保険を再度チェックする必要があると思わざるを得ない。銀行預金と違って明確な破綻処理策が確立していない現在、加入生保の破綻で思わぬ不利益（解約不能や保険減額等）を受けかねない状況が目の前で展開されている。

しかし残念ながら、多くの生保は経営内容のディスクローズに消極的だ。その健全性をチェックするデータがとぼしい状況下では、少ないデータと世情の噂を頼るほかはない。

下表は日経金融新聞で紹介されたもので、昨年９月末基準で業界筋が試算したソルベンシーマージン（支払余力）比率と最近の格付けを表わしたものである。この比率の算出方法は解りにくいので説明しないが、２００％を上回っていれば一応安全とされている。下表を子細に見ていただければ判るが、昨年９月末時点で３つの基準いずれも２００％を下回っている生保が日産生命であったことは注目される。

新基準では、破綻した日産生命を除く全ての生保が２００％を超えているが、この算出には株式含み益の９０％、土地含み益の８５％が支払余力として算入されている（旧基準はそれぞれ４５％、３５％算入、新基準（裸）は含み益を算入しない比率）。この含み益を加えた支払余力算出をどう見るかによって、下表の見方は大きく違ってくる。

私個人の見方からすれば、株式と土地の含み益のほとんどを算入する新基準の比率で健全性を判断するのはかなり危険である。日産生命のように未公開の多額の含み損を抱えていた例だってある。むしろ新基準は、当てにならない含み益の８～９割を頼りにしなければならない程厳しい状況の生保があることを示しており、限界的な判断資料と考えるべきだ（含み除外の裸で２００％以上は５社しかない）。

生命保険は文字どおり生命を保障する長期契約である。あってはならない破綻が今後も起り得るとすれば、私達に透明な判断資料が公開されなければならないと思うのだが…。

【主要生保のソルベンシーマージン比率と格付け】　　（９６年９月末、単位％、億円）

	新基準	旧基準	新基準（裸）	株式含み益	格付け
太陽生命	１７３７	５９８	７１５	８，３７１	
日本生命	１２３３	５２６	２２６	４５，２４９	ＡＡ＋
明治生命	１１４６	５０２	１９８	１９，５８１	ＡＡ－
富国生命	１０６９	４５４	１６０	３，００２	
大同生命	１０６１	４６０	３０１	１，６７２	
第一生命	９２９	３８１	２２８	２２，８４１	Ａｐｉ
安田生命	７７３	３０４	２２４	４，２６９	Ａ＋
朝日生命	６８６	２４５	１７５	６，７６２	ＢＢＢｐｉ
東京生命	５５１	１９５	★８７	２５９	
住友生命	５０５	１８３	１７９	７，３１７	ＢＢＢｐｉ
三井生命	４７４	１９６	１００	４，５０９	ＢＢｐｉ
第百生命	３９２	１６６	１４０	７８８	
日本団体生命	３２７	１４０	★９２	４６５	
千代田生命	３２０	１３８	★７６	１，８８４	Ｂｐｉ
協栄生命	３１１	１４７	１１４	３７０	
東邦生命	２８１	★８１	★１０	４６６	
日産生命	１３３	★５８	★４５	１００	

（格付けはＳ＆Ｐ社による最新国際格付け、ｐｉは公開情報だけに基く格付け、表示無しは格付け未取得）
（★印は１００％未満、影映部分は２００％未満）

TEL. 0438－53－6092　FAX. 0438－53－6096
Nifty－ID　BZH10642　　E－mail　f3583079@nv. aif. or. jp